

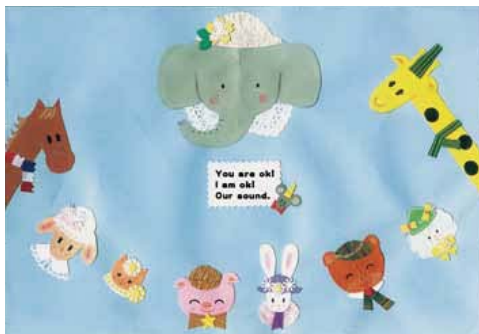
クラブ絵Dは、勤労婦人センターで昭和61年に開講されたグラフィックデザイン講座（講師：グラフィックデザイナー納戸健次さん）の受講生が昭和63年に結成したグループです。

グループ名称の「クラブ絵D」は、絵画の「絵」とデザイン=Designの「D」の意味で納戸先生につけて頂きました。職業、年齢、ライフスタイルも違うメンバーですが、24年間活動を続けています。

くろめフォーラムでは「LOVE&PEACE」をテーマに作品を制作してきました。「LOVE&PEACE」には、「平等でなければ平和ではない」、「平和でなければ平等ではない」、そしてそこには「愛」があることを意味します。

テーマは「LOVE&PEACE」

クラブ絵Dは、今後も絵画・デザインを楽しんで活動し、作品を発表していきます。



タイトル：『響きあう』（平成21年度作成）  
響きあい、みんなでステキな音楽を奏できるように、十人十色（音）をお互い認め合うと、よりよい関係を築くことができるでしょう。

日本を飛び出した女性たち

図書情報ステーション

日本から世界へ飛び出した世界基準の女性たちが書いた本を紹介します。彼女たちと共通するのは、好奇心と自分らしさを大事にしていること。彼女たちからエネルギーと前に進むヒントをみつけてみては。

ハーバード白熱日本史教室

北川智子 新潮社 2012年  
久留米の高校から留学の道を進み、アジア系、女性、若さなどさまざまな逆境を乗り越えて、ハーバード大学の日本史クラスの講師になった北川智子さん。ユニークな手法と情熱で歴史を学ぶ楽しさを教え、日本史クラスをあっという間に人気講座にします。可能性は無限大、彼女のメッセージがひびきます。



世界旅ガール、70億人と友だちになる

笑顔と度胸の「規格外」旅行記

中鉢明子 マガジンハウス 2011年

思い立ったら即行動！大学時代のデンマーク留学から彼女の世界旅行は始まりました。ニューヨーク、セネガル、マリなど世界30か国をひとり旅した女優・中鉢明子さんからの前向きなメッセージが満載。あらゆるトラブルを乗り越え、人生に真正面から向き合ったポジティブ旅行記です。



クニイの地球の走り方  
とうとうバイクで北米横断しちゃいました

国井律子 産経新聞出版 2011年

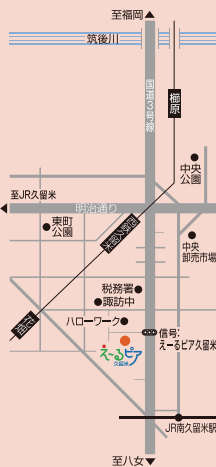
女性ライダーたちの憧れ国井律子さんが、アメリカのシアトルからニューヨークまでの7300キロを1カ月で走破した記録です。ロッキーの絶景、どこまでも続く一本道から大都会へ。北米横断をやり遂げたいという想いと周りのサポートと半年がかりの準備があればこそその結果。「バイクは男性の趣味、女性には無理」なんて未だに思っている人はいませんか？



●編集・発行●  
平成24年12月

久留米市男女平等推進センター

〒830-0037  
久留米市諏訪野町1830-6  
エーるピア久留米内  
TEL. 0942-30-7800  
FAX. 0942-30-7811  
URL. <http://www.city.kurume.fukuoka.jp>  
E-mail. [danjorc@city.kurume.fukuoka.jp](mailto:danjorc@city.kurume.fukuoka.jp)



■徒歩／西鉄久留米駅から約10分（約700m）  
■バス／西鉄久留米駅から約5分  
JR久留米駅から約20分  
「税務署前」下車、徒歩3分  
■駐車場（有料）はございますが、おいでの際はなるべく公共交通機関をご利用ください。

この広報誌は環境に配慮し、再生紙を使用しています。

JOURNAL



Contents

- 誌上講座レポート…「あなたの可能性は無限大」～北川智子講演会
- 特集…くろめフォーラム2012「男女平等社会づくり 明日へわたそう 自分らしく生きる社会を！」  
記念講演「人口減少社会を生きて：孤立・無縁・無援を超えて」上野千鶴子  
市民企画・映画
- 誌上講座レポート…女性に対する暴力をなくすキャンペーン「急性期の性暴力被害者支援に求められること」
- 相談室だより…性犯罪・性暴力の二次被害をなくすために
- 男女平等政策課からのお知らせ…男女共同参画フォトコンテスト
- 登録団体紹介…クラブ絵D
- 図書情報ステーション…日本を飛び出した女性たち





## あなたの可能性は無限大

～ハーバード白熱日本史教室より～ 10月12日

講師 北川 智子さん

(前ハーバード大学東アジア学部レクチャー)

「ハーバード白熱日本史教室」の著者、北川智子さんの講演会を開催しました。ハーバード大学での講義さながらの講演会で、強い信念を貫く北川さんの姿は「女性の活躍が社会を変える」様子を身近で感じさせるものでした。

(このレポートは講演の一部をセンターで要約したものです)

### 普通の高校生からハーバード大学で教えるまで

高校時代は理数科で数学や物理を中心に勉強していて、英語は得意ではなかったという北川さん。しかし「親友がカナダに住む」という話を聞いて、自分もカナダに行ってみたくてと思ったのが全ての始まりでした。その後、英語の勉強をしてカナダの大学で数学と生命科学を学びますが、その時は歴史を学ぶことなど全く考えていませんでした。アルバイトで日本史教授のアシスタントとして資料を読む仕事をする中で、「何かおかしい」と思ったそうですが、そのことに気づいたのはハーバード大学の夏期講習に行った時。そこで日本史の授業はサムライ中心の内容で、日本の歴史がサムライという男性中心の歴史だったからです。北川さん自身、海外で貢献できることは「日本史を男性だけでなく女性がいる書き方をする」と気づき、その後、プリンストン大学で本格的に勉強し、博士課程を3年で終了。ハーバード大学で日本史を教えることとなりました。

### アクティブ・ラーニングを体験

北川さんは「教える中で、単に自国の歴史を翻訳するのではなく、自国の歴史がどんな風に学生に役立つのか、興味があるものなのかをわかってもらうことが大切であることを学びました」と話されました。

そこで、実際にハーバード大学で行っていたアクティブ・ラーニング（自分たちで実際に試しながら学ぶ体験型学習）というユニークな手法を講演の中で実践。「1542年から1642年までの間の九州の歴史を1つ海外の人に説明する」という課題が会場に与えられ、数人のグループになって話し合い、言葉や寸劇で表現しました。自分の興味を引き出すアクティブ・ラーニングを通じて、勉強が楽しいものだということを実感しました。



### みなさんへのメッセージ

①どんなことでも8割ではなく10割をめざしてやってみること。そうすると目標を達成するということが以上に、次の目標が見えてくる。②行き詰まったら、何か突破口となる点を必死に見つけ出すこと。③オリジナリティを大事にし、自分が感じたことを信じて実行すること。④ものごとを創造し、行動すること。⑤友だちという鏡に自分を映し出して見てみる。それらを実践し、自信を持ってあなたらしく進めば「あなたの可能性は無限大」です。若いみなさんにはもっと大きく羽ばたいてほしい、と話を結ばれました。



## 相談室だより

平成24年10月16日、沖縄県で米海軍兵による女性に対する集団強かん致傷事件が起きました。今回は、この事件への人々の反応から見える性犯罪・性暴力の二次被害について考えます。

### ●「二次被害」とは

二次被害とは、被害者が周囲から被害者の方に非があるかのような批判的な言動をされたり、問題を軽視されたりする状態を言います。二次被害としてよく言われるのは「女性が挑発的な服装や行動をしていたから」、「抵抗していないのだから、同意でしょう」、「襲われるのは、被害者にスキあるから」等の言葉です。これらは全て偏見であり誤りですが、このような言葉から二次被害は生まれます。今回の件でも「夜中に出歩いた女性が悪い」という、さも被害者に落ち度があるかのような発言が一部で見られました。

### ●「二次被害」によって被害者は・・・

被害者は、相談した相手から再び傷つけられるかもしれないと思うと、被害を訴え出ることや周囲に助けを求めることができにくくなります。被害者は、親族・友人・職場・果ては不特定多数の人からインターネット上でまでも、いわれのない非難を受け、自分が悪いと思いつむようになって追いつめられていきます。

### ●二次被害をなくすために

相談室では被害者が自らの意思で判断・行動し自分の人生を取り戻していけることを願って相談を受けています。

二次被害をなくすためには、性犯罪が人の心と体を深く傷つける深刻な犯罪であることを社会が認識し、誤った知識や偏見をなくしていくことが不可欠です。そのためには、女性に対する暴力の根絶に向けた社会への意識啓発が必要であり、併せて被害直後から被害者を支援することができるシステムの構築が急務と言えます。



## 男女共同参画フォトコンテストを実施しました

～家庭・職場・学校・地域の身近な男女共同参画～

久留米市では、「男は仕事、女は家庭」という性別役割分担意識の解消に向けて、市民の皆さんと協働しながらさまざまな啓発事業に取り組んでいます。本年度は、男女平等について考えるきっかけとするため、男女共同参画フォトコンテストを行い、市民の皆さんが考える身近な男女共同参画の様子を撮影した写真を募集しました。家事や育児をする男性やバスの運転士、消防士として活躍する女性などを写した50点の応募がありました。

掲載している最優秀賞作品は、三井郡大刀洗町の棚町良真さんの作品「これでもいい？」です。

審査会では、この作品について『男女という性別にとらわれず対等な立場で「仕事」に向き合い、力を合わせて安全運転に取り組んでいる真剣な様子が、シンプルの中にも見事に表現されている』との審査員のコメントがありました。

優秀賞に選ばれたのは、5名の方の作品です。いずれの作品も、日常生活における男女共同参画の様子を見事にとらえています。

入賞者は10月7日の『くるめフォーラム2012』の会場で表彰されました。また、応募作品は、女性週間（10月1日～7日）を中心に、約1か月にわたりえるピア久留米をはじめ市内5カ所で開催しました。



作品メッセージ：  
バス運転前にタイヤの点検をしている女性運転手。大勢の命を預かる仕事、大事な始業前点検は、男、女に関係なく、しっかり確認して安全運転に努めている。

# 女性に対する暴力をなくすキャンペーン



暴力は、加害者、被害者の性別や間柄を問わず、決して許されるものではありません。特に、配偶者や交際相手等による女性に対する暴力については、女性の人権を著しく侵害する行為であり、解決すべき重要な課題です。当センターでは、11月12日から「女性に対する暴力撤廃の国際デー」である11月25日までの2週間で「女性に対する暴力をなくすキャンペーン」期間として、講演会をはじめ様々な事業を実施しました。ここでは、性暴力救援センター・東京（SARC東京）で性暴力被害者の支援者として活動する平川和子さんの報告を紹介します。

## 「急性期の性暴力被害者支援に求められること」

講演：平川 和子さん  
性暴力救援センター・東京（SARC東京）事務局長



（このレポートは講演の一部をセンターで要約したものです）

### センター開設への思い

私は以前から相談員仲間と「性暴力被害直後からのサポートがあれば…」と話をしていました。性暴力被害者のPTSDは『被害直後の初期反応からの回復の障害である』と言われるように、被害を受けた直後から1ヶ月くらいの間（急性期）に心のケア、様々な情報提供、居場所の確保などの対応があれば被害者はこれほど大変な苦しい思いをすることはしないのではないかと感じてきました。そして、急性期の性暴力被害者の人々への社会的サポートを何らかの形ですすめていきたいと思っていました。

### SARC東京開設の経緯

準備委員は、産婦人科医療、カウンセリング、司法、女性支援・活動、精神科医療など、皆それぞれの場で共通の体験と思いがありました。それは、多くの性暴力被害者と出会い、被害者が人間としての痛みに向き合う日々の畏れと被害者へ何もしてもらえなかった無力感、また、被害者への安全で確かな初期対応の必要性というものを感じていました。さらに、被害のその後を生き延びてきた女性たちからは、被害直後には安全な場でのぬくもりが必要であり、加害者を罰してほしいというよりも日常生活が戻ることを一番に望んでいるということを知りました。そして、先行実践している性暴力救援センター大阪（SACHICO）などの応援と情報を得て準備を進め、平成24年6月、まつしま病院にセンターを開設しました。

### 活動状況と利用者の状況

当センターでは35人の支援員がボランティアで4交代制、24時間で対応をしています。相談実態として、開設以来5ヶ月間で電話相談が702件、来所相談40件、初診人数は14人にのぼっています。初診14件の内訳は、性虐待2件、強姦・強姦わいせつ12件のうち2件は逮捕されています。また、来所理由として、警察より8件、子ども家庭センターより1件、IT検索より4件、寄り添いホットラインより1件となっており、最近では周辺の警察からの情報提供も増えてきている状況です。

### 成果と課題について

この5ヶ月間の成果は、被害者の再診率が上がったことです。再診率が上がるということは、被害の初期から社会的なサポートができ、被害者の回復を阻害しない効果があったことが考えられます。しかし一方で課題もあります。24時間ホットラインの継続、中でも夜間対応の大変さです。また、支援員の人員費や公費負担のない診療費・検査費などを一時貸与するための基金など財政的な課題です。その他、協力病院の拡大や、支援が必要な人への情報を届けるネットワークの必要性などを課題認識しているところです。性暴力救援センターでは、生活再建のための援助など、中長期的にわたる継続的な総合的支援をめざして活動を続けていきます。

## 明日へわたそう 自分らしく生きる社会を！

久留米市では、女性も男性も、自分らしくイキイキと生きることのできるように、行政と市民の共通の指針である「久留米女性憲章」を昭和63年に制定しました。憲章制定日である10月1日からの一週間で「久留米女性週間」と定め、その記念事業として「くるめフォーラム」を毎年実施しており、今年で24回目を迎えました。

今回のテーマ「明日へわたそう 自分らしく生きる社会を！」には、「一人ひとりの人権が大切にされ、女も男も自分らしくイキイキと生きていける社会、そしてそのような社会を明日に繋げていきたい」との思いが込められています。

### 記念講演

「人口減少社会を生きる：孤立・無縁・無援を超えて」

講師 上野 千鶴子さん  
社会学者・立命館大学特別招聘教授・東京大学名誉教授・  
NPO法人ウィメンズアクションネットワーク（WAN）理事長



このレポートは10月7日に行われた講演の一部を要約したものです。

### ●老後に必要なことは

日本は人口減少社会を迎え、お手本の無い超高齢化社会になりました。これから生涯非婚率が高くなり、家族を持たない、作らない人が多くなると予想される中、家族だよりの老後のシナリオを描くことはできなくなっています。そこで問題となるのが、家族・親族に代わる代替ネットワークをどう確保するのかということです。人と人との繋がり、すなわち「金持ち」よりも「人持ち」であることが大事だと考えます。

### ●選択縁の社会へ

人間の社会には、血縁、地縁、社縁の3つしかないかと思っていましたが、それ以外に「選択縁」というものがあることに気づきました。選択縁とは、加入・脱退が自由で強制力がなく、責任を伴う約束も要求しない、人間関係を自分の選択で決めることができる縁のことです。

選択縁社会の言い出しっぺに「転勤族の妻」がいます。彼女たちはグループ内で病気の子どもの看病をしたり、また自分が病気になったときもお互いに助け合い、繋がりを持っています。私はこういった縁を「女縁」と呼んでおり、女縁は親族ネットワークに代わる互助機能を果たしています。また、彼女たちはいくつものグループに属しており、何かトラブルがあったらそのグループから撤退し、「あちらがだめならこちらがあるさ」という考え方でアイデンティティのリスク管理も行っています。

一方、男性には社縁があったため、女縁に類するような「男縁」はあまり必要ありませんでした。しかし、これから超高齢社会になると社縁から遠のく人が増えるため、男縁の必要性が高くなります。ただし、女縁・男縁と分けることはありません。男女共学縁で行くのがよいのではないのでしょうか。

### ●誰もが安心して弱者になれる社会を！

現代は「無援社会」、すなわち周囲の助けを得られない社会と言われていています。しかし、超高齢社会では誰もがいつかは弱者になり、最後は誰かに助けてもらわなければいけません。孤独死というと、メディアは行政の対応について批判しますが、行政は助けてと言わない人に手を出すわけにいきません。つまり助けてもらうためのスキルが必要となるのです。困っていることを言葉にして、お互いに共有し合わなければなりません。また、自分より上の年代とも下の年代とも繋がり、選択縁の幅を広げておくことも、無縁社会を乗り切るために必要ではないかと思うのです。

# KURUME FORUM 2012

市民企画特集 9.28(金)～10.7(日)

「明日へわたそう 自分らしく生きる社会を！」をテーマに開催された「くorumフォーラム2012」は、市内38の団体を中心に総勢50人からなる実行委員会が結成され、約半年かけて準備が行われました。

期間中は上野千鶴子さんの記念講演や映画上映、展示・バザーの他、14団体が企画した講演会やパネルディスカッション、替え歌合唱などがあり、多くの方がそれぞれの視点から男女平等を考える機会を持つことができました。



男女(みんな)元気で楽しく  
高齢社会を過ごそう



城島女性ネットワーク

高齢期を心豊かに過ごすには、日頃から知恵を蓄えること、柔らかな生き方を心がけるなどのアドバイスをいただきました。

私たちが男女共同参画社会久留米  
を実現するために

～基本的な問題を学びなおす～



久留米男女共同参画推進ネットワーク

産業構造の変化、少子高齢化等変動期にある日本社会で男女共同参画形成が必至の課題であることを訴えられました。

女性・子どもと貧困  
～社会的包摂に向けたNPOの取り組み～



女問研・北京JAC九州in久留米

母子家庭の貧困の背景には、女性の貧困の問題等、現場の実状的に対する取り組みについてお話しいただきました。

小さく産んで大きく育てる・・・は  
本当によいことか？

～リプロの視点から見た胎児期からの食育～



リプロダクティブヘルス・ライツ  
と環境を考える会

妊娠期の女性の栄養状態と生活環境の関連性など、データを元にわかりやすくお話しいただきました。

男女共同参画の視点でまちを元気に！

みんな  
男・女がともに活躍できる社会を



三瀬女性ネットワーク

「役職を勧められたら、『私でよければがんばります！』と言える人になってください」と熱いメッセージが送られました。



北野女性ネットワーク

「職場においても男性、女性、両方の視点で物事をすすめることが大事」と説明された会社社長の話は説得力がありました。

主夫と主婦 かなで書けば同じ しゅふ



田主丸町女性ネットワーク

「夫が『家事をやるよ』と言った時には、周りの人がサポートすることが大事ですね」と自身の経験を交えて語られました。

実は大切な人にDVをしていた！？  
DVされていた！？



男女共同参画教育を推進する会

グループで討議がなされ、DVについての世代間での共通点や相違点など活発な意見が出されました。

DV家庭で生きる 子どもたちの心の色  
～子どもの心に寄り添う支援を考える～



Support of the Child

子どもたちの生きづらさやSOSを周囲が受け止め、寄り添っていく支援が大事と話されました。

歌いとばそうジェンダー  
歌いあげよう私らしい人生



S・ぱ～ぶるリボン

女性たちの生きづらさや人生観を替え歌にのせ、「前を向いて生きて行こう」と元気に歌いあげました。

消える記憶の中で「本人の想い・  
家族の想い」

～その人らしく、生き生きと過ごすために～



高齢社会をよくする会・久留米

認知症になってもその人らしくいきいきと過ごすために、予防をはじめ認知症を正しく理解することを学びました。

カラダをゆるめて「こころ」をとき  
はなとう！

～自分の心と体を感じるボディワーク～



柄本亜紀子

音楽を聴きながらリラックスすることで体の状態が楽になり、体と心理状態が関連していることが体感できました。

パパの考える「協育」とは

～パパと一緒にサイエンス教室 身近な物  
でできる実験～



パパラフネットくorum

子どもとの実験や遊びを通して育児の楽しさや大切さを感じてもらうことができました。

性的マイノリティのあなたとともに  
～性的マイノリティの子どもへの支援～



あいたた倶楽部

意識の中にすり込まれている性への差別や偏見に、当事者がいかに生きづらさを抱えているかを知る機会になりました。

映画 隠された日記 母たち、娘たち

2009年 フランス・カナダ キャスト:カトリーヌ・ドヌーブ他

フランスの田舎に帰省したオドレイ。ある日、亡き祖父が暮らしていた海辺の家で1冊の古い日記を見つける。それは50年前に家族を残して家を出た祖母のものだった。その日記をとおして描かれる3世代の女性たちの物語。

参加者からは、「女性の強い生き方を感じました」、「女性の自立と自由、社会風習など考えさせられました」などの声が寄せられ、その時代その時代で悩みながら懸命に生きる女性たちの姿に、自分自身の『生き方』を改めて考える機会となりました。

